

研究の夢 広がる

興譲館高に最先端機器

DNA自動抽出装置製造のプレシジョン・システム・サイエンス(PS S、本社・千葉県)は28日、米沢興譲館高校(横戸隆志校長、604人)に「全自動核酸抽出システム装置」1台を贈った。贈られたのは、核酸(DNA、RNA)を自動で取り出せる機器で、大きさは縦55センチ

30センチ高さ60、重さは30キほど。血液などのサンプルをセツすると、約30分後に抽出が完了する。一般的な手作業に比べ、半分以下の時間という。寄贈は、最先端の技術を高校生たちに知ってほしいと、初めて実施。文科省から「SSH」の指定を受け、高校生科学教育大賞を受

賞するなどの実績があり、遺伝子抽出や解析に力を入れていることから、興譲館高が選ばれた。

この日は、PS Sの営業推進担当部長齋藤雅光さんが同校を訪れ、贈呈式が開かれた。生徒を代表し、いづれも2年生で遺伝子研究に取り組む吉野祐紀君(16)、横山夏海さん(17)、鹿俣沙耶さん(17)の3人が出席した。齋藤さんが「世界有



数の高い技術を若い人に知ってほしい」と目

録を手渡すと、受け取った吉野君は「この装置を駆使してたくさん

の賞を獲得し、世界に羽ばたいていきたい」と意欲を見

せた。式後、3人は齋藤さんから装置の説明を受けた。約5分でセツトが完了することなどが伝えられると「すごい」と感心した様子だった。横山さんは「DNA抽出の手間がなくなる分、ほかの作業に時間が充てられる。研究の夢が広がりそう」と嬉しそうだ。装置は、授業や部活動などで活用していくという。